夕刊デイリー　第13538号　（第3種郵便物認可）

トロンボーン尽くしの一日

延岡で2回目のフェスティバル　前回の倍270人が参加

「第二回宮崎トロンボーンフェスティバルinのべおか」が四月二十九日、延岡総合文化センターであった。五十本もの楽器や楽譜、グッズの展示・販売、プロ奏者によるクリニック（講習会）、コンサートがあり、朝から夕方までトロンボーン一色。昨年夏に開いた初回の倍の二百七十人が県内外から訪れ、大成功のうちに幕を下ろした。主催は、県北のトロンボーン奏者でつくる実行委員会（松原正幸実行委員長、十人）。

全体クリニックで演奏する受講者たち

ベルの代わりに、実行委員が演奏で開演を知らせた。クリニックは、午前中に行ったコンペティションで九団体の中から選ばれた大分県佐伯豊南高校カルテット（四重奏）をモデルにした指導と、来場者全員を対象にした指導があった。

講師は、シエナ・ウインド・オーケストラの郡恭一郎さんと、ロイヤルチェンバーオーケストラの村田秀文さん。

佐伯豊南高校カルテットを指導する郡恭一郎さん

100人の大合奏で最後飾る

人の輪広がり　レベルアップ

楽器の試し吹きを楽しむ来場者

郡さんは、滑らかにメロディーをつなげることや、深い響きのある音づくりを強調。「外国語の『ta』や『da』『ra』などを深く発音するつもりでタンギングするといい」とアドバイスした。

村田さんは、演奏する時の姿勢や呼吸を中心に教えた。楽器が揺れて音がブレるのを防ぐには「目をつぶり、スライドを持っているつもりで、周りにぶつからないように手を動かす」、息の流れを意識するためには「すべてグリッサンドで（音をつなげて）練習してみる」などの練習法を伝授した。

コンサートには、コンペティションで選ばれた宮崎市の檍中学校クインテット（五重奏）を加えた十四団体が出演した。

昨年は一般参加者だった佐伯市吹奏楽団が演奏側に加わり、昨年は独奏者だった今村岳志さん（都城西高校出身）が東京芸術大学の学生三人を連れてカルテットで参加。さらにジャズ奏者河埜光一さん（宮崎市）のバンドが加わるなど、「初回よりパワーアップ」（松原実行委員長）。

クラシックを主体に、ジャズ、ポップス、演歌、さらにヘリコプターや暴走族の音まねも登場する楽しいステージが続いた。プロ奏者や音大の学生たちは鮮やかな演奏で聴衆を魅了した。

村田秀文さんの指導で呼吸法を練習する全体クリニックの参加者

楽譜・グッズコーナーも人気

最後は、楽器持参の来場者全員での大合奏。昨年の六十七人を超える約百人が、松原実行委員長の指揮で「ロンドンデリー・エアー」と「ワシントンポスト」を演奏した。

隣の展示室では終日、多種のメーカーが楽器を展示。来場者はマウスピースを持参して、次々と試し吹きを楽しんだ。

佐伯豊南高校カルテットの山内絵里加さん（三年）は「たくさんのトロンボーンを見ることができたのも、モデルバンドに選ばれたことも夢のよう。参加してよかった」と興奮気味。

延岡星雲高校の名倉紡季さん（三年）、吉弘奈央さん（二年）、島田歩実さん（同）も「こんなに大勢で演奏したのは初めて。音に厚みがあって楽しかった」と話した。

昨年の倍以上の参加者は、同フェスティバルの今後の発展を予感させた。松原実行委員長は「トロンボーンには、人の輪を広げる潜在的な力があるのかもしれない。来年もぜひ開きたい」と力強く語った。

郡恭一郎さんと村田秀文さんの共演。ピアノは浜月春佳さん

女声合唱団　コール・あいの団歌誕生

20周年を記念して〝すてきな歌〟

延岡

二十周年記念の「第十六回サラダ・コンサート」は十月二十八日午後三時から延岡総合文化センターである。歌と共に、団員一小ホールであった。

長井さんは合唱の基礎講座を開くなど、三年前から団員と交流を深めて

イメージを大切にするため、団名と同じ平仮名のタイトルにした。また、多くの人に歌ってほしいという願いを込めて、歌詞

ンポや強弱などを指導。「またお〝あい〟しましょう」と締めくくった。

同合唱団を指揮する今村愛子さんは「美しいメ